

「地域おこし協力隊が見つけた」

## しらたかの鉄人! 達人!



①甘さと酸味が絶妙な勇太さんのりんご ②赤と黄と緑のコントラストが青空に映える。癒しの空間でもあるりんご畑 ③勇太さんがコーチを務める「しらたかFCホークス」。主に6年生を指導しており、これまで数々のタイトルを勝ち取ってきた



## 「りんご農家」

浅野 勇太さん (貝生・41歳)

## 「人と人との繋がりの大切さ」

「(りんごが)なるのではない、(りんごを)ならせる」と子どもを育てるように木一本一本に手をかけ、りんごの栽培をしている勇太さん。平成23年に白鷹町に移り住み、朝日町で1年間の研修を受けた後に独立。朝日町で就農した5年、今年度から白鷹町でも畑を手掛けるようになりました。

前職は理美容師と建設業というまったく異なった業種からの就農でしたが、「顔の見えるつながりを大切にしてきた」と理美容師時代に培ったコミュニケーション能力と営業力、建設業で得た技術を発

揮し、自ら重機を操縦して1畝の耕作放棄地を開墾して苗木を植えるなど、今までの経験を農業に生かしています。

また、町内のサッカースポーツ少年団でコーチもやっており、親同士のつながり作りにも積極的に参加しています。「子どもから学ぶことも多いし、スポ少をやっていることで地域とのつながりができているのは自分から待っているのではなく、自分から行動して広げていきたい」と勇太さん。「他に達人たくさんいるよ。俺なんかまだまだ。」と謙虚に話すその眼は、輝きに満ちていました。

どんなにハードな作業をした後でも、収穫がピークのときに陽が昇る前から夜が更けるまで作業した後でも、翌日には人1倍いきいきしていて、とにかくタフでまさに鉄人。勇太さんのりんごはリンゴジュースを食べている感覚で衝撃を受けました。

地域おこし協力隊

澤邊 聖さん



SELF JUDGE

編集後記

▼あけましておめでとうございませう。広報担当として迎えた3回目の新年。昨年も取材などを通していろんな人と出会い、たくさんの人に支えられました。お世話になった皆さん、本当にありがとうございます。今年も皆さんの役に立つ広報誌をお届けすることで、少しでも恩返しができるようにがんばります。

▼お正月の風物詩と言えば「箱根駅伝」。一本の襷(たすき)に思いを込めて、今年も数々のドラマが生まれました。私の母校も久しぶりのシード権獲得と大健闘し、私自身また目標に向かってがんばろうという気持ちになりました。

▼誰かの活躍は、別の誰かを元気づけたり、勇気づけたりと、何かしらの影響を与えます。今年は昨年以上に町民の皆さんの活躍を広報誌などで発信していければと思います。▼さて、2018年は戌年(いぬどし)です。今年一年が皆さんにとって「ワンダフル(すばらしい)」な年になるよう、心よりお祈りいたします。本年も「広報しらたか」をどうぞよろしく願っています。(てつか)